

受領 令和4年6月1日 14時57分

通告番号 (11) 1/3

令和4年6月1日

読谷村議会
議長 伊波 篤 殿

読谷村議会議員
城間 真弓 印

一般質問通告書

第517回読谷村議会定例会において次の事項の質問をしたいので、会議規則第61条第2項の規定により通告いたします。

質問要旨	答弁を求める者
<p>1 村民の声と想いを形に。未来につなぐ読谷村総合情報センターのあり方とは。</p> <p>(1) 県内でもあまり事例のないPFI事業を、読谷村も今回取り入れ総合情報センターを建設予定である。これまでの事業とPFI事業の何が違うのか説明を求めます。</p> <p>(2) PFI事業について、日本や海外の事例を踏まえると、リスク分析がもっと必要だと感じる。今回の情報センターをPFI事業で行う事に関してメリット、デメリットをどのように考えるか。</p> <p>(3) 村民の税金約37億の予算を使って行うこの事業だが、愛知県小牧市の新図書館計画案では38億だった予算が、最終的には50億となり白紙撤回に追い込まれた事例もあった。物価高で資材も高騰している状況の中で、本当に37億で収まる保証はあるのか。</p> <p>(4) 読谷情報センターの根幹ともなる読谷村立図書館の事業運営に関して、読谷村が今回めざそうとする図書館像とは。</p> <p>(5) 読谷村総合情報センターをめぐる様々な情報が飛び交う中、村民の皆さんから説明会を開いてほしいとの声が上がっている。村としての対応は。</p>	
<p>2 子どもは村の宝！一人ひとりが大切にされる「読谷村子どもの権利条例」の制定を。</p> <p>(1) コロナ禍が続く中、去年発表された2020年の子どもの自殺</p>	

質 問 要 旨	答弁を求める者
<p>率は前年度から 30%を上回る過去最多となった。全国では、子どもの権利がどんな場面でも大切にされることを約束する「子どもの権利に関する条例」を制定した自治体は 2022 年 4 月現在 61 自治体となっています。未来を担う読谷村の子どもたちを、村の責任でしっかりと支え、守っていく「読谷村子どもの権利条例」の制定が必須だと考えるが、村の方針とは。</p>	
<p>3 読谷中学校生徒がまたもや事故の被害に。読谷中学校周辺の交通安全対策について。</p> <p>(1) これまでに読谷中学校前にて生徒が 2 回巻き込まれる事故が発生している。その 2 回の事故の状況と生徒の怪我の状況とは。</p> <p>(2) 今回起こった事故を受け、読谷中学校校長からも教育委員会へ通学路の安全対策について要望があったと思いますが、その内容とは。</p> <p>(3) 現在、学校職員が早朝から出勤し、危険とされる数カ所の場所の交通誘導を行い、また部活を終えた後の遅い時間も行われている。その状況は、前校長の時代から頭を悩ませていたことの一つである。この状況を含めて、村としての今後の対応と、対策は急務である。 職員の生活及び、生徒たちの命を読谷村としてどう守っていくのか。</p>	
<p>4 誰もが安心して暮らせる優しい村づくりへ。障がい者支援の拡充を。</p> <p>(1) 令和 4 年度 5 月末時点での、身体障がい者、視覚障がい者、聴覚障がい者、精神障がい者の人数は。</p> <p>(2) 計画相談員なしでは障がい者支援サービスを受けられないが、計画相談員の過重な業務体制や精神的な負担による成り手不足の問題もあり、相談員と必要なときに連絡が取れなかったり、障がいを抱えた方の必要なサービスがなかなか受けられない現状がある。この課題に対してどのように取り組んでいくのか。</p>	

質 問 要 旨	答弁を求める者
<p>5 「気候危機」の報道がメディアでも取り上げられるようになり、一刻を争う大きな社会問題となっている。読谷村としても本気で今環境問題に取り組むことが急務だと考えるが、村としての対策とは。</p>	